

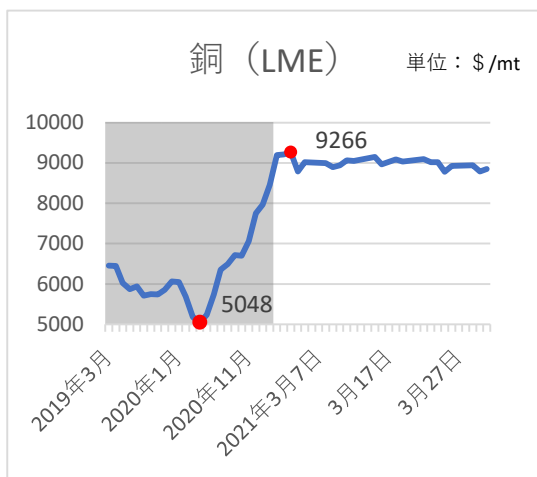
非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



- ドル高による割高感や米長期金利上昇によるリスクオフの動きを受けて軟調に推移、\$ 9,200 台から \$8,800 台に下落

(2019年3月～2021年2月の値は月平均)

2. 需給動向

国際銅研究会 (ICSG) の3月22日発表によると、2020年1～12月の世界の銅需給実績は以下のとおりで、需給バランスは55.9万tの供給不足だった。

<2020年1～12月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

| | 2020年1～12月 実績 | 2019年1～12月 実績 | 増減率 | 2020年年間予測 (2020年10月発表) |
|--------|------------------|------------------|-------|---------------------------|
| 鉱石生産 | 20,517 | 20,528 | -0.1% | 20,223 |
| 地金生産 | 24,419 | 24,045 | +1.6% | 24,434 |
| 地金消費 | 24,978 | 24,427 | +2.3% | 24,486 |
| 需給バランス | -559 | -383 | | -52 |

(うち、中国の銅需給実績)

| | 2020年1～12月 実績 | 2019年1～12月 実績 | 増減率 |
|------|------------------|------------------|--------|
| 鉱石生産 | 1,723 | 1,683 | +2.4% |
| 地金生産 | 10,025 | 9,783 | +2.5% |
| 地金消費 | 14,428 | 12,750 | +13.2% |

(出典) 国際銅研究会

3. 供給障害

- ◆ ターコイズ・ヒル・リソーシズ、中国の国境封鎖によりオユ・トルゴイ銅鉱山で不可抗力宣言(モンゴル)

リオ・ティント(英豪)子会社で、オユ・トルゴイ銅鉱山(モンゴル)を保有するターコイズ・ヒル・リソーシズ(加)は3月30日、中国政府によるCOVID-19感染拡大防止のための国境封鎖によって、中国への出荷が停止したことを受けて、同国向けの銅精鉱供給契約について不可抗力宣言を行った。出荷の再開時期は未定で、ターコイズ・ヒル・リソーシズはモンゴル政府と協力しながら中国政府へ規制解除の要請を行っていると思われる。

同鉱山は、2019年に年間14.6万tの銅精鉱を生産。2022年10月予定の坑内掘り開始後は年間48万tの生産を見込んでいる。保有権益はターコイズ・ヒル・リソーシズが66%、モンゴル国有企業のエルデネス・オユトルゴイが34%。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

| | | | | | | | | |
|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3月1日 | 3月3日 | 3月5日 | 3月9日 | 3月12日 | 3月17日 | 3月22日 | 3月24日 | 3月29日 |
| 1,010 | 1,040 | 980 | 1,030 | 1,040 | 1,020 | 1,030 | 1,010 | 1,030 |

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2021年2月分=令和3年2月分)

| | 2021年2月 | 2021年1月比 | 2020年2月比 |
|----|-----------|----------|----------|
| 生産 | 113,216 t | -18.3% | -13.4% |
| 出荷 | 110,770 t | -14.7% | -18.3% |
| 在庫 | 124,307 t | +3.4% | +13.3% |

(出典)日本鉱業協会

生産は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は9か月ぶりの減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は8か月ぶりの減少。内訳は内販が前月比6.7%減、前年同月比7.3%減の6.8万tで、ともに2か月ぶりの減少。輸出は前月比12.4%減、前年同月比28.1%減の4.5万tで、ともに2か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年同月比8.4%減の4.3万tで2か月ぶりの減少、伸銅品向けは前年同月比7.3%減の2.2万tで2か月ぶりの減少。在庫は前月比が4か月連続の増加、前年同月比は14か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

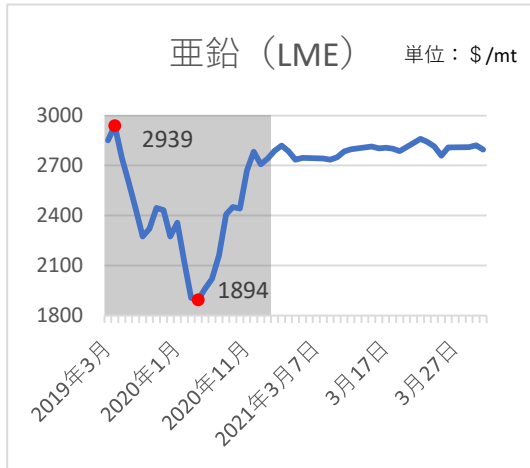
(一社)日本電線工業会によると、2021年2月の銅電線出荷は前年同月比5.5%減の5.2万t(推定)と17か月連続で減少した。うち内需は前年同月比5.2%減の5.1万tで13か月連続の減少、輸出は17.2%減の1,200tで3か月連続の減少。内需の部門別では、電気機械が6か月連続、自動車が増加、通信が2か月ぶり、電力が4か月ぶり、建設・電販が13か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年2月の伸銅品生産は前年同月比5.5%増の6.4万t(速報)と2か月連続の増加となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が増加、自動車端子向けの黄銅条は14.0%増で4か月連続の増加。コネクタ向けの青銅板条は11.9%減で5か月ぶりの減少。エアコン向けの銅管は8.7%減で13か月連続の減少となった。

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ \$2,700 台から \$2,800 台を推移

(2019年3月～2021年2月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の3月22日発表によると、2021年1月の世界の亜鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは1.2万tの供給余剰だった。

<2021年1月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

| | 2021年1月 実績 | 2020年1月 実績 | 増減率 | 2021年間予測 (2020年10月発表) |
|--------|---------------|---------------|-------|--------------------------|
| 鉱石生産 | 1,042 | 1,017 | +2.5% | 13,143 |
| 地金生産 | 1,190 | 1,160 | +2.6% | 13,986 |
| 地金消費 | 1,178 | 1,094 | +7.7% | 13,523 |
| 需給バランス | +12 | +66 | | +463 |

(うち、中国の亜鉛需給実績)

| | 2021年1月 実績 | 2020年1月 実績 | 増減率 |
|------|---------------|---------------|---------|
| 鉱石生産 | 340 | 301 | +13.1% |
| 精鉱輸入 | 195 | 166 | +17.4% |
| 地金生産 | 560 | 527 | +6.3% |
| 地金輸入 | 50 | 23 | +116.6% |
| 地金消費 | 598 | 516 | +15.8% |

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

3. 供給障害

- ◆ ネクサ・リソーシズ、地盤変位によりバザンテ亜鉛・鉛・銀鉱山の操業を一部停止(ブラジル)

ネクサ・リソーシズ(ルクセンブルク)は3月19日、ブラジルのミナスジェライス州に保有するバザンテ亜鉛・鉛・銀鉱山において異常な地盤変位を検出したため、一部の操業を停止したことを発表した。同鉱山はバザンテ鉱床とエクストレモ・ノルテ鉱床で構成されているが、エクストレモ・ノルテ鉱床の定期検査において異常な地盤変位が発生していることが確認されたことから同鉱床での操業を停止した。今後2~3か月をかけて地質、地盤の分析を行っていく。バザンテ鉱床の操業には問題がないため、第1四半期の生産量には影響がないとしているが、亜鉛の年間生産計画量は、14~15万tから13~14万tに、平均品位は10.58%から9.88%に下方修正した。鉛と銀の生産量は変更しないとしている。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

| | | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3月1日 | 3月5日 | 3月10日 | 3月15日 | 3月18日 | 3月23日 | 3月26日 |
| 346 | 343 | 352 | 358 | 361 | 367 | 355 |

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年2月分=令和3年2月分)

| | 2021年2月 | 2021年1月比 | 2020年2月比 |
|----|----------|----------|----------|
| 生産 | 41,783 t | -9.4% | -4.1% |
| 出荷 | 46,203 t | +5.3% | +10.8% |
| 在庫 | 64,263 t | -6.4% | -17.7% |

(出典)日本鉱業協会

生産は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は5か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

2021年1月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比1.4%増の82.1万tで、16か月ぶりの増加となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年1月の伸銅品生産は前年同月比1.8%増の58,854t(確報値)で、26か月ぶりの増加となった。黄銅製品では、黄銅条が5.6%増の7,582tで3か月連続の増加。黄銅棒が5.2%減の13,526tで12か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2021年1月分=令和3年1月分)

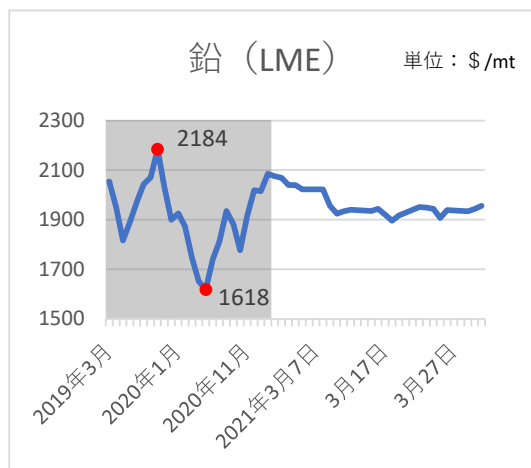
| | 2021年1月 | 2020年12月比 | 2020年1月比 |
|-----------|----------|-----------|----------|
| 亜鉛めっき鋼板 | 821千 t | +13.0% | +1.4% |
| 黄銅製品 | 23,737 t | -0.6% | -3.1% |
| 亜鉛ダイカスト | 1,166 t | +0.1% | -17.2% |
| 酸化亜鉛(亜鉛華) | 4,322 t | +34.6% | -13.6% |

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ \$2,000 台から\$1,900 台へ軟調に推移

(2019年3月～2021年2月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の3月22日発表によると、2021年1月の世界の鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは2.2万tの供給不足だった。

<2021年1月の世界の鉛需給実績表>

単位: 千トン

| | 2021年1月 実績 | 2020年1月 実績 | 増減率 | 2021年年間予測 (2020年10月発表) |
|--------|---------------|---------------|-------|---------------------------|
| 鉱石生産 | 366 | 353 | +3.7% | 4,719 |
| 地金生産 | 999 | 933 | +7.2% | 12,080 |
| 地金消費 | 1,021 | 933 | +9.5% | 11,888 |
| 需給バランス | -22 | +0 | | +192 |

(うち、中国の鉛需給実績)

| | 2021年1月 実績 | 2020年1月 実績 | 増減率 |
|------|---------------|---------------|--------|
| 鉱石生産 | 144 | 129 | +11.6% |
| 精鉱輸入 | 57 | 49 | +16.0% |
| 地金生産 | 405 | 349 | +15.9% |
| 地金輸入 | 1 | 2 | -32.3% |
| 地金消費 | 418 | 364 | +15.0% |

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

| 3月1日 | 3月5日 | 3月16日 | 3月26日 |
|------|------|-------|-------|
| 285 | 279 | 273 | 270 |

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年2月分=令和3年2月分)

| | 2021年2月 | 2021年1月比 | 2020年2月比 |
|----|----------|----------|----------|
| 生産 | 14,027 t | -17.6% | -15.1% |
| 出荷 | 19,420 t | +12.5% | +2.7% |
| 在庫 | 11,991 t | -31.8% | -21.1% |

(出典)日本鉱業協会

生産は前月比、前年同月比ともに2か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は4か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は4か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

2021年1月の自動車生産台数は前年同月比9.9%減の68.7万台で、2か月ぶりの減少となった。また、二輪車生産台数は前年同月比7.0%減の5.0万台で、12か月連続の減少となった。

(一社)電池工業会によると、2021年1月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で216.3万個(前年同月比6.0%増)と2か月連続の増加、自動車用以外の鉛蓄電池は45.4万個(9.2%減)と4か月ぶりの減少となった。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は261.7万個(3.0%増)となった。

鉛関連製品生産統計(2021年1月分=令和3年1月分)

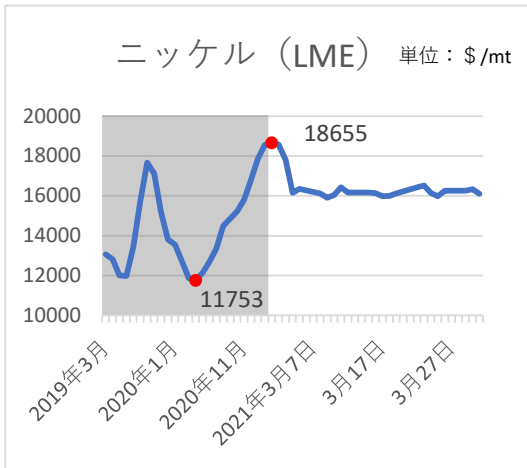
| | 2021年1月 | 2020年12月比 | 2020年1月比 |
|----------------|----------|-----------|----------|
| 自動車 | 687,029台 | -8.6% | -9.9% |
| 自動車用鉛蓄電池(鉛量 t) | 14,466 t | -14.4% | -4.6% |

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

ニッケル

【海外】

1. 価格推移



- ・ 初旬は中国企業の供給契約発表を受けて、\$2,500 程度下落
- ・ その後は \$16,000 近辺を推移

(2019年3月～2021年2月の値は月平均)

2. 需給動向

国際ニッケル研究会 (INSG) の3月19日発表によると、2021年1月の世界のニッケル需給実績は以下のとおりで、需給バランスは8.4千tの供給余剰だった。

<2021年1月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

| | 2021年1月 実績 | 2020年1月 実績 | 増減率 | 2021年年間予測 (2020年10月発表) |
|--------|---------------|---------------|--------|---------------------------|
| 鉱石生産 | 198 | 178 | +11.3% | 2,804 |
| 地金生産 | 219 | 199 | +10.2% | 2,586 |
| 地金消費 | 211 | 183 | +15.0% | 2,518 |
| 需給バランス | +8 | +16 | | +68 |

(うち、中国のニッケル需給実績)

| | 2021年1月 実績 | 2020年1月 実績 | 増減率 |
|------|---------------|---------------|--------|
| 鉱石生産 | 9 | 9 | 0.0% |
| 地金生産 | 60 | 60 | +0.8% |
| 地金消費 | 118 | 97 | +22.3% |

(出典) 国際ニッケル研究会

3. 供給障害

◆ ノリリスク・ニッケル、坑内浸水で 2021 年生産計画量を下方修正(露)

ノリリスク・ニッケル(露)は 3 月 16 日、シベリアに保有するオクチャブリスキー鉱山とタイミルスキー鉱山が地下水の浸水により操業を一部停止していることを受けて、2021 年の生産計画量を下方修正することを発表した。ニッケルは 22~23 万tから 3.5 万の引き下げ、銅は 39~41 万tから 6.5 万tを引き下げる。同社は 2 月 12 日にオクチャブリスキー鉱山の坑内で地下水の流入を確認。両鉱山の坑道は繋がっているため、どちらも操業を一部停止した。操業再開はオクチャブリスキー鉱山は 5 月、タイミルスキー鉱山は 6 月を見込んでいる。両鉱山では 2020 年に 560 万tの硫化鉱の銅鉱石とニッケル鉱石を生産しており、同社国内生産の 36%を占めている。

◆ 住友商事、アンバトビー・ニッケルプロジェクトの操業を再開(マダガスカル)

住友商事は 3 月 23 日、マダガスカルで手掛けるニッケル鉱山開発事業のアンバトビー・ニッケルプロジェクトの操業を再開した。本プロジェクトは COVID-19 感染拡大の影響によって 2020 年 3 月末から操業を停止しており、2020 年 4~6 月期に約 550 億円、10~12 月期に約 300 億円の減損損失を計上していた。コバルトの生産再開については公表されていないが、英情報配信会社の S&P グローバル・プラッツは、取引関係者の間ではすぐに再開される見方と 5 月頃まで遅れる見方があるとしている。

住友商事は 2005 年から本プロジェクトに参画。当初は 25%のマイナー権益を保有するに過ぎなかったが、2020 年 9 月に共同出資している資源開発会社シェリット・インターナショナル(加)の財務悪化に伴って同社の権益すべてを他の株主に譲渡したため、持分の一部を取得し、現在では 54.17%の持分比率になっている。INSG の統計によると、2020 年のニッケル生産量は 1.0 万tだった。

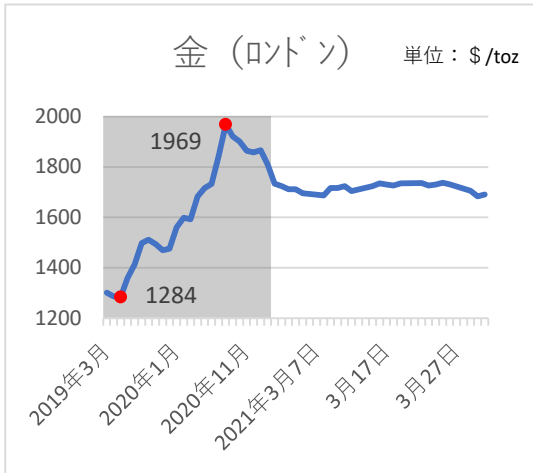
【国内】

メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2021 年 2 月分=令和 3 年 2 月分)

生産は 2021 年 1 月比 0.9%減、2020 年 2 月比 5.3%減の 4,591tで、それぞれ 3 か月ぶりの減少と 6 か月連続の減少となった。

金

【海外】 価格推移



- ・ \$1,700 近辺を推移
- ・ 月末はドル高や米長期金利の上昇を受け \$1,600 台に下落

(2019年3月～2021年2月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3月1日 | 3月2日 | 3月3日 | 3月4日 | 3月5日 | 3月8日 | 3月9日 | 3月10日 |
| 6,005 | 5,932 | 5,974 | 5,927 | 5,890 | 5,985 | 5,930 | 6,020 |
| 3月11日 | 3月12日 | 3月15日 | 3月16日 | 3月17日 | 3月18日 | 3月19日 | 3月22日 |
| 6,047 | 6,062 | 6,102 | 6,109 | 6,101 | 6,173 | 6,090 | 6,092 |
| 3月23日 | 3月24日 | 3月25日 | 3月26日 | 3月29日 | 3月30日 | 3月31日 | |
| 6,098 | 6,057 | 6,104 | 6,095 | 6,122 | 6,072 | 6,012 | |

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2021年2月分=令和3年2月分)

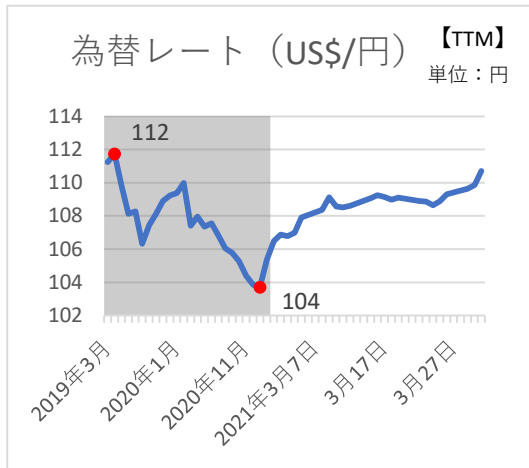
| | 2021年2月 | 2021年1月比 | 2020年2月比 |
|----|---------|----------|----------|
| 生産 | 7,308kg | -12.2% | -26.3% |
| 出荷 | 7,344kg | -15.2% | -14.2% |
| 在庫 | 3,596kg | -1.0% | -29.1% |

(出典)経済産業省生産動態統計調査(生産と出荷の前年同月比については、以前の実績との間で不連続を生じたため、連続性を確保したもので計算)

生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は5か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は5か月連続の減少となった。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は11か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



(2019年3月～2021年2月の値は月平均)

- ・ 米長期金利上昇などを受けてドル買いが進行、\$1=106円台から110円台に推移
- ・ 3月31日は2020年3月以来のドル高となる110.71円